様式４

令和5年度　学校評価書（学校運営協議会用）　（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

福岡県立朝倉光陽高等学校長

学校番号 82

自　己　評　価

学　校　運　営　計　画　（４月）			評価（総合）
学校運営方針	地域共創の理念の下、校訓「向学、忠恕、壮健」を教育指針とし、「志をもって意欲的に学び、自律心と素直さそして思いやりの心を持つ、逞しい生徒」を育成する。		B
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	
新型コロナウイルス感染症の対策を取りながら、体育祭や文化祭等の学校行事を実施し、生徒の教育活動を徐々にコロナ前の状態に戻すことで学校生活の満足度を高めることができた。 また、昨年度から新学習指導要領が実施段階となり、学年進行で新しい教育課程に変更されるとともに、一人一台端末が整備され、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に向け、職員研修を実施し、ICTを活用した授業改善を進めることができた。本校の特色である少人数中心の授業についても生徒の満足度は高く、今後も継続する必要がある。進路実現に向けても生徒ひとりひとりの希望に沿い、就職・進学に向けた丁寧な指導を行うことで進路実現１００％を達成できた。 さらに規範意識、挨拶、言葉遣いなどマナー全般に関しても意識の高まりが見られ、積極性と落ち着きの、両方を伴ったメリハリのある学校生活になりつつある。 生徒募集については３年連続で中学生体験入学の参加者が増加し、広報活動について一定の手ごたえを感じられ、結果として普通科が定員を充足し、本校に対する評価、期待の表れを実感した。一方で、食農科学科は定員割れが続いており、食農科学科の魅力化に向けて分析を行い、新たな手立てを考える必要がある。 また、個別最適な学びの実現に向けては、ソーシャルスキルトレーニングを導入し、望ましい学級づくりと仲間づくりを推進できた。次年度以降もこの取組を継続し、ひとりひとりの生徒にとって居場所があり、安心して生活できるクラス環境を整備し、不登校生徒の解消にもつなげたい。 授業改善については全学年で一斉導入した観点別評価について、点検を行い、各観点に基づいた適切な評価と生徒・保護者に説明責任を果たせる評価を実施し、信頼を寄せられる学校経営を実践していく。	地域との関わりを大切にした、魅力ある学校作り	①保護者・地域・関係機関等への情報発信を積極的に行い、地域に信頼される学校作りに努める。 ②ボランティア活動や販売実習などの校外活動の推進に努める。 ③各学科の類型の特色を踏まえた教育活動の充実を図る。	
	生徒会・農業クラブ・家庭クラブの活性化	①各組織の到達目標を明確にした活動を実践する。 ②生徒会新スローガン「万里一空」の下、学校行事や委員会活動を活発に行い、多くの成功体験を積ませ、自己有用感を高める。	
	ＩＣＴ等を有効に活用した授業改善と適切な観点別評価の実施	①一人一台端末等を活用した職員の授業力、指導力の向上に努める。 ②観点別評価については、個々の生徒の個性や特性に十分配慮し、全教科・全学年で適切に実施する。 ③授業規律である「光陽スタンダード」を着実に実施し、落ち着いた授業の中で確実な学力の定着を図る。	
	人権感覚豊かで思いやりのある生徒の育成	①悩みやいじめの早期発見・早期対応による安心な学校環境づくりを推進する。 ②人権教育に関する講演会及び人権教育授業を充実させ、生徒の人権感覚を育成する。 ③ＳＳＴ（ソーシャルスキルトレーニング）を実施し、他者理解や集団で必要なコミュニケーション技術を育成し、良好な人間関係の構築に努める。	
	キャリア教育の充実	①専門教育の体系化を図るとともに、専門知識と技術を身につけた幅広い職種に対応できる人材を育成する。 ②キャリア教育の視点から進路学習の充実と職業観・勤労観の育成を図る。 ③３カ年を見据えた段階的、教科横断的な取組を行う。	
	生徒の安全管理の徹底	①学校安全や交通安全の意識を高め、事故防止と危機管理の高揚に努める。 ②防災教育を充実させ、予期せぬ自然災害等にも対応できる意識を高める。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	数値目標	評価（３月）			今後の主な課題
学校経営	学校教育目標及び本年度の教育重点目標の実現に向けた各取り組みを推進する。	生徒会や農業クラブ・家庭クラブ等の生徒主体の活動を活発化させ、各種活動や行事に計画的に取組むことで、生徒の学校生活満足度を向上させる。	90%以上	B	B	B	・新型コロナウイルスの対応が5類に移行され、活動の大幅な制限が撤廃され、生徒が主体的に体育祭や文化祭等の学校行事に取組み、学校生活満足度は上昇した。また、個人面談週間を活用し、生徒理解や進路実現に向けた指導を充実することができた。課題として、人権感覚を意識して適切な言語感覚を身につけさせていくために、挨拶運動を中心としながら全教科・全領域で職員の合意形成のもと、啓発を行っていかねばならない。 ・定員割れの解消に向けては、今年度の２回のオープンスクールは昨年度より参加者が増加し、本校に興味・関心を持つ中学生・保護者が増加してきている。そのため、本校のきめ細やかな指導を多く中学生や保護者、先生方に知ってもらえる機会として、公開授業を行い本校の実態を継続してPRしていきたい。また、オープンスクールに参加した中学生が本校への志願につなげるために、体験内容をより精査するとともに、本校生徒との交流の機会を増やすなどさらなる改善が必要である。また、中途退学者の減少に向けては、個人面談週間の活用やカウンセリング等の教育相談の機会を活用し、早期発見、早期対応を今後も継続していきたい。
		適切な言語感覚を身につけるとともに、ひとりひとりの人権感覚を磨いていじめを生まない環境づくりを行う。挨拶運動を継続的に行い、笑顔と大きな声で挨拶できるように指導する。		B			
		個人面談週間を活用し、生徒の実態や特性に応じて生徒理解や進路実現のために適切な指導を行うとともに、生徒の３年間を通じたキャリア教育を推進する。	進路実現100%	A			
	定員割れの解消を最大の課題ととらえ、地域の信頼と期待に応えられる学校経営を目指す。	本校の教育内容を浸透するための取組みを継続し、中学校訪問や出前授業を積極的に行う。	出前授業学期１回以上	A	B		
		本校のＰＲのための広報紙等を作成するとともに、HPの更新による情報発信を積極的に行い、本校の魅力を中学校へPRする。		B			
		保護者や関係機関との連携強化により、中退者や問題行動を減らし、地域からの信頼を高める教育活動を実践する。	中退者０	B			

学校運営協議会評価

評価（総合）	自己評価
B	Ａ：適切である Ｂ：概ね適切である Ｃ：やや適切である Ｄ：不適切である

項目ごとの評価	学校運営協議会からの意見
B	

教　　務	基本的生活習慣と学習態度の確立	生徒の出欠状況を常に把握し、情報を各部署と共有することで生徒への素早い指導を確実に行う。	通年	A	B	B	・各セクションで確実に業務が遂行されており、教務主任への報告もなされている。教務部内での情報共有もできており、ミスがあったとしても早期発見により素早い対応ができている。 ・スプレッドシートと校務支援システムの活用で、出欠状況と遅刻者の把握については確実に行うことができている。遅刻者数は昨年度よりも多くなっており、指導の在り方を検討する必要がある。 ・校務支援システムの運用のマニュアルが完成した。成績処理や調査書、指導要録の作成を滞りなく進めていくことができる。また、校務支援システム担当者の負担軽減も期待される。 ・授業評価アンケートを１学期と３学期に行った。これから分析等を行い、来年度の授業改善を強く訴えかけていきたい。 ・令和６年度に向けての教務規定の内容変更について、余裕を持って議論を行い、進めることができた。変更点について周知を徹底し、間違いなく運用できるようにしたい。	B	遅刻者に対する指導については、遅刻者が増加した原因を詳細に分析するとともに、数値目標の在り方を検討する必要がある。
		遅刻する生徒に対して教務主任が毎回話をする機会を設け、遅刻に対する意識を変えていくことで遅刻者の減少につなげる。	前年比１０％減	C					
		生徒の授業への取組状況を把握して適宜個別面談等を行い、授業への取組の改善を図る。	適宜	B					
		授業評価アンケートを行って授業内容の反省・改善を図り、生徒の授業満足度を高めることで、学習意欲の向上につなげる。	アンケート年２回	B					
	校務の確実な遂行と迅速化	各学年、各部、各教科に対して先を見通した提案を心がけ、連絡調整の円滑化及び連携の強化を図り、計画的な校務遂行に努める。	通年	B	A				
		役割分担を明確にして各自が責任を持って業務に取り組む体制を整え、１つ１つの業務に対して慎重かつ丁寧に業務を遂行する。	通年	A					
	新教育課程への対応および統合型校務支援システムの効果的運用	新教育課程に対応した評価方法を確実に実行し、生徒の良いところを積極的に評価することで生徒の成長を促す。また各教科担当にさらなる授業の改善を求め、学校全体でよりよい授業づくりを行う。		B	B				
		校務支援システム運用３年目として１つの完成形を整える。作業の流れ等をマニュアル化し、システム担当者の負担軽減を目指す。		A					
生徒指導	生徒会・各種委員会等の活動をさらに前進させ、生徒の成長につなげる。	生徒会主導で校門等での朝のあいさつ運動に取り組み、生徒会スローガンのもと、活気ある学校の雰囲気づくりを行う。	年間	A	B	B	・校則等は、生徒会が企業調査を実施し、生徒指導部でも検討することができた。また、運営委員会等でも検討し、課題も含め議論することができた。予定より遅れているが、様々な意見から良い方向を模索することができたので、今後は、地域の中学校や他校を参考にしながら改善及び見直しをすすめたい。 ・現在、部員がいない部活動については、休部も含め検討する必要がある。 ・生徒会の挨拶運動は積極的に推進ができているので継続したい。また、行事等の企画・運営に主体的に取り組むようにしていきたい。 ・いじめ問題には、未然防止と早期発見、早期対応を組織的行っていく。 ・次年度も見守り活動を続けながら生徒の支援と安心安全な学校づくりに努める。 ・今年度は、新型コロナ感染症が５類に移行され、生徒の活動が増えて、行事等が積極的に取り組める反面、問題行動が多く見られた。講演会や集会等を通して規範意識を高め、気になる生徒に声かけしていくなど未然防止観点の生徒指導を推進していく。	B	挨拶運動は、校内だけではなく、杷木小学校・中学校で実施できたことは、ボランティアマインドの育成や地域貢献になるとともに、小学生・中学生が朝倉光陽高校を身近に感じられる活動であるので、今後も継続して欲しい。
		生徒会・各種委員会の会議を定期的に開催し、各取組活動を推進していく。	学期２回以上	B					
		学校行事では、生徒会を中心に企画・運営を実践させることによって成長を促す。	適宜	B					
	校則等を見直すとともに安心安全な学校づくりを目指す。	職員だけでなく、生徒会にも校則等について検討させ、生徒が自発的に取り組むような内容にしていく。また、１２月までに学校ホームページに掲載する。	～１１月	B	B				
		各規定等で課題があれば生徒の成長につながるようにしていく。	適宜	B					
		いじめは絶対に許さないという態度のもと、未然防止とアンケート等を中心に早期発見・早期対応に努め安心安全な学校を目指す。	年間	B					
	生徒指導を通して生徒が光陽生として自立できるようにする。	登校指導や見守りのための巡回指導等を通して、身だしなみ等の指導をはじめ、生徒の状況等を共有し見守ることで、些細な変化を見逃さずに迅速に対応する。	適宜	A	B				
		各講演会等を通して、生徒の規範意識を向上させる。また、教員が生徒の情報を共有し、情熱を持って生徒への指導にあたることで生徒の成長につなげる。	適宜	B					
		生徒指導専任・生徒指導部教員を中心として積極的に生徒に関わり、生徒を認めていくことで学校での居場所を作り、中途退学防止等に努める。	適宜	B					

進路指導	生徒・保護者の希望を叶える進路保障を目指す	定期的な進路希望調査を実施し、キャリア教育関連行事を通して、進路意識の向上や適切な職業観の育成を図る。	各学期	B	B	B	・各進路行事において、適切にルーティン化が図られており、業務の軽減と行事内容の充実につながっている。総合的な探究の時間を活用した本校独自のキャリア教育をステップアップさせていきたい。 ・潤沢に求人票が集まり、良い内容で就職支援活動ができた。早期離職防止対策として、様々な取組を実施した。職員・生徒ともに能動的に活動できた。企業選択のミスマッチをなくし、納得のいく就職試験を受けることができた。しかしながら、一般常識やＳＰＩ試験の結果が振るわず、不合格になってしまう生徒もおり、その対策充実が急務である。 ・四年制大学進学希望者の学力不足に大きな不安がある。指定校推薦での合格後に個別の学習指導の必要がある。また、校内選考に出願する事前段階で、本人の学力を把握することも重要である。 ・広報活動に組織力がなく、負担感が大きくなる一方で、機動力のある活動ができている。中学生の保護者からは「光陽ならどちらでもいい」や、中学校の先生方からは「光陽があって助かった」などといった声が数多く聞かれるようになり、本校への信頼度、期待度がさらに大きくなっていることを実感する。２回のオープンスクールの参加者数も昨年度を上回った。本校の粘り強く手厚い指導が、多くの中学生の保護者や地元中学校の先生方に理解され、志願者数が劇的に増加した。 ・ＰＴＡ活動において、視察旅行は廃止し、学校行事の「キャリアガイダンス」にご参加いただけるように案内を実施する。	B	進学する生徒に向けて、十分な基礎学力をつけていく必要がある。 朝倉光陽高校の就職率が高いことが中学校でも評判になっているため、本校を卒業して描ける未来像をＰＲしてもらいたい。 中学校の立場から見て、朝倉光陽高校を学力の高い生徒が希望するようになってきている。特に食農科学科は、食品や農業に直接関係がない所にも就職できることをＰＲしていく必要がある。
		進路担当教員や進路支援コーディネーターからの「キャリア講話」を定期的に各学年ごとで実施し、より多くの進路関係情報を提供する。	月１回	B					
		面接試験対策指導や一般教養・SPI試験対策を適宜行い、生徒全員の希望進路実現をサポートする。	100%	B					
	キャリア教育を通して、「幸せで豊かな人生」を想像する力を涵養し、地域に貢献できる「人財」を育成する	学校全体でキャリア教育に取り組む体制を整える。各学年のキャリア教育に関する行事において、学年主任の指揮の下、役割分担を明確にし運営する。	通年	A	B				
		総合的な探究の時間の活動を充実させ、進路情報の提供やコミュニケーション能力の向上、表現力の伸長をを図る。	通年	B					
		地元の福岡・朝倉・うきはを支える「人財」となるために地域社会の課題についてよく理解させ、体験的な学習を通して「地域創生」の精神を涵養する。	通年	B					
	中学校との情報交換を行い、戦略的に広報活動を推進する	進路相談事業やオープンスクールを通して、各類型の特色や学習内容を伝え、特に、食農科学科の魅力について中学生やその保護者により多くＰＲする。	随時	A	A				
		ホームページや学校案内、ポスターなどがアピール力のさらに高いものにして、中学生やその保護者の目に届く広報媒体を充実させる。	随時	B					
		各中学校の担当者や市町村の適応指導教室などを訪問する機会を増やし、懇切丁寧な対応を心がけ、さらに信頼を大きくする。	随時	A					
	PTA活動について、適切なサポートを行う	杷木地区の行政機関や関係校との連携を深め、地域の子どもたちの健全育成に貢献する。	年１回	B	B				
		あいさつ運動や各研修会などの保護者の活動を補佐的に支援する。	随時	B					
図書研修	授業研究の充実 （１人１台端末活用）	本校の実態に応じた「主体的・対話的で深い学び」を実践する相互授業参観週間を設定し、授業力向上や改善のための意見交流の場とする。	年２回	A	B	B	・相互授業参観週間では、一人一台端末の活用と評価方法の工夫について、授業実践、研究を行うことができた。特に、２学期は公開授業という形で相互授業参観を実施し、中学校の先生方にも授業を見ていただくことができた。しかし、参観後のアンケート（Forms）の提出状況が芳しくなかったため、次年度以降は、授業の準備→実施→反省の流れを確立していきたい。 ・計画通り、年間５回の職員研修を実施することができた。先生方がどういった研修を希望しているのか、実態把握に努めながら、次年度以降、研修を計画していきたい。 ・事前の準備を十分にしたうえで、図書委員による朝の朗読を実施することができた。次年度以降、電子黒板やChromebookを活用した形の朝の朗読が実践できるよう、図書委員会で話し合いを行っていきたい。	B	
		１人１台端末の有効な活用法について研究し、職員で共有する。	通年	B					
	職員研修の充実	各分掌と連携して、今現在の校内の問題点を解決できるような職員研修のテーマを設定し、充実を図る。	年４回以上	A	B				
		研究紀要の発行を通して、研修および日々の教育の成果や課題の振り返りを促し、発展・改善につなげる	年１回	B					
	図書館教育の充実	図書委員会を定例化し、読書への興味関心を喚起するような図書館だよりを発行するなど活動を活性化する。	委員会月１回 発行年３回	A	A				
		図書委員会による「朝の朗読」を通して、読書への興味を喚起する。	学期１回	A					
保健環境	生徒の心身の健康管理と安全の保持	ＳＣ、ＳＳＷ、訪問相談員や関係機関と連携を図り、課題を抱える生徒の支援を継続的に実施する。	随時	A	A	B	・日々の学校生活の中で起こるケガや体調不良に迅速かつ適切に対応し、生徒の安全と健康を守ることができた。 ・SCやSSWと円滑に連携をとり、担任・保護者と協力しながら、迅速に生徒の心身のケアや支援を行うことができた。 ・スクールカウンセリングについては、養護教諭が中心となり生徒本人や担任から生徒の悩みや不安を早期に捉え、カウンセリングに適切につなぐことができた。 ・養護教諭、修学支援担当、各学級担任との情報共有がより密に常時行えるような仕組みづくりを検討したい。 ・本校生徒の健康課題を整理し、保健環境委員会の生徒を中心として、食事と睡眠のような基本的生活習慣の見直しや、言語環境やメンタルヘルスについての啓発活動を行えるよう、次年度に向けて具体的な計画を立てていきたい。	B	
		１年生においては、できるだけ早期に体験カウンセリングを実施し、個々の抱える課題の早期発見や支援につなげる。	随時	A					
		日頃より担任や教育相談担当者間で気になる生徒の情報を共有し、今後の対応を協議する。	通年	B					
	美化意識の向上および教育環境の整備	言語環境も含めた校内の環境整備や衛生環境の向上のために、保健環境委員による自治活動の推進を図る。	通年	B	B				

第１学年	基本的生活習慣の確立及び生徒理解	「時を守り、場を清め、礼を正す」を基本に生活習慣が身につけられるように指導を行う。	通年	B	B	B	・生徒達も学校生活や友達関係に慣れて、トラブルや欠席・遅刻が一部の生徒に多く見られた。保護者との連絡を取り指導や話を行い保護者と情報の共有は行ったが、効果的な解決にはいたらなかった。また、体調不調を訴え保健室の利用が多かった。家庭での基本的生活習慣や食習慣が定着していないように感じた。今後家庭と協力し根気強く話を続ける必要がある。 ・今後の進路実現に向けて、類型や総合選択科目を考えさせ、事ある毎に将来のビジョンが考えられるように情報を与え、自ら考え選択するように指導した結果バラツキがあったが、希望に近い形にはなったと考える。 ・生徒達とゆっくり話を行う時間が少なかったが、保健室からの情報や各教科担当者と協力で生徒たちの変化や悩みに対応できた。学年での細かな情報共有がやや不十分だった。 ・保護者との連絡はこまめに行えている。ＳＣ、ＳＳＷとの連携も必要に応じて行いたくさんの情報を知ることができた。カウンセリングは、今後も生徒の変化に対応し継続や単発で必要に応じて行いたい。	B	今年度の中学3年生は、新型コロナウイルスの影響で、体験的活動や集団的な活動が十分に行えていないため、非認知能力や自己肯定感が低い生徒が多くみられる。高等学校に入学後も、その点に注意しながら、生徒たちの活動の支援を行ってもらいたい。
		SHRや学年集会など日々の指導や、進路指導をとおして、先を見とおし主体的な行動がとれ、物や時間の自己管理ができる習慣を育成する。	通年	B					
		定期的な個人面談等をとおして生徒の実態把握に努め、規範意識や他者への思いやりの心を育成する。	通年	B					
	学習態度の育成及び基礎学力の向上	総合的な探究の時間を計画的に利用し、進路や類型選択について意識を高める指導を行う。	通年	A	A				
		定期的な巡回を行い授業規律及び光陽スタンダードの徹底を図る。また、教科担当や学年団と連携し、早期に成績不振者への指導を行う。	通年	B					
	保護者や中学校及びSC、SSW等との連携	日頃から電話連絡や面談等をとおして保護者との連携を図り、中学校やSC,SSWと情報共有し、生徒の個性や特性に適した指導に努める。	随時	A					
第２学年	基本的生活習慣の確立及び自己有用感の涵養	授業やＳＨＲ、学年集会などの日々の指導を通して、先を見通して行動する力や時間や物を管理する力を身に付けられるようにする。（遅刻数の統計を指導に活かす）	通年	B	B	B	・各SHRや集会等を通して、行事毎に目的を明確にして活動させることができた。そのため、先を見越して行動する生徒も増えてきている。しかし、物の管理に関しては各クラスで課題となっているため、継続的に指導していく必要がある。 ・ボランティア活動については、５月から１１月までの２学年全体での参加率が７０％を超えており、各クラス６０％を超えている。このことをしっかりと価値づけして、学年の強みにできるようにしたい。 ・社会人としてのモラルやマナーについてはできている生徒とできていない生徒が明確になってきているため、個々に応じた指導をしていきマナーやモラルが守れていることをしっかりと認めて、生徒たちに光陽生としてあるべき姿をイメージさせながら指導していきたい。 ・生徒情報の共有については、担任間ではしっかりと行うことができているため継続していくのと、各分掌や教科担当の先生とも協力してしっかりと指導していきたい。	B	
		・学校行事やボランティア活動への主体的な参加を促し、自己有用感を高めることやチャレンジ精神を育む。また、学期・行事毎に課題の設定、振り返りを行うことで自分自身の変容を自覚させる。（ログに残す） ・クラスルール（具体的な行動目標）を作成して、すべての級友が安心して学び成長できるように自治する力を養うとともに、指導にも活かす。	随時	A					
		学校や社会のルールを守り、自分も他者も大切にすることができる生徒を育てるために、教員間での情報共有を密に行って生徒の実態把握に努めることと、それを基に学年指導と個人面談を通して適切なコーチング行う。	通年	B					
	進路に対する意識の向上と進路実現に必要な力の育成	インターンシップやオープンキャンパスの事前・事後指導を通して、今後の学校生活での目標を更新できるようにする。また、積極的な資格取得を促し、主体的な進路選択を行う能力を養う。	通年	A	A				
		社会人として必要なマナーやモラルを身に付る一助となるよう、巡回指導や授業など各指導の場を通して、授業規律の徹底（挨拶・態度など）を図る。	通年	A					
	保護者やSC、SSW等と連携してきめ細やかな支援の実施	日頃の電話連絡や面談などをとおして保護者との連携を図る。またSC、SSW等と生徒情報を共有し、中途退学防止並びに生徒の心のケアに努める。	随時	B	B				
第３学年	社会人基礎力の定着と最上級生としての自覚を持たせる	生徒の進路実現を念頭に、挨拶、返事の励行。時間厳守の指導を徹底し、基本的な生活習慣の改善と社会人基礎力の定着を図る。	通年	A	A	B	・歓迎遠足、体育祭を通して学校のリーダーとしての自覚をもった行動ができた。特に体育祭では、主なリーダー以外の３年生も協力する姿があった。光陽祭においても出店企画やステージ発表など積極的に計画、準備に取り組み、達成感や充実感を得ることで学年全体として成長できた。 ・キャリア講話や進路面談を通して段階的に進路指導部と連携しながら積極的な支援や見通しをもった指導を行った。進路実現１００％を目標に継続してサポートを行ったが、自己進路を安易に考えている生徒もいるため、応募前職場見学や三者面談等で進路選択におけるミスマッチを防ぐことは今後も継続したい。今年度は、就職選考会議後の日程が過密になるため、早期の履歴書指導や面接練習を業者によるサポートが効果的であった。さらに面接練習等を段階的に計画する必要がある。 ・今年度、進路実現や学校行事、学業成績を意識した生徒が増加傾向にあったが、問題行動や欠席が続く生徒も少なくはないため、就職前説明会や学年終礼などを通して卒業後の社会人としての生活を見据えて意識の向上に努めたい。	A	生徒の進路実現率100％を目標としているが、現在、何名の生徒が未定であるのか。未定の生徒に対しては、どのような支援を行っているか。
		SHRや学年集会など日々の指導、そして進路指導をとおして、先を見通した行動がとれ、物や時間の自己管理ができる習慣を育成する。	随時	B					
		学校行事や部活動で中心的な役割を担うことで、学校のリーダーとしての自覚を育成し、最上級生として模範となる。	随時	A					
	進路希望の実現	進路指導部や各類型と連携し、進路決定に必要な情報を提供するとともに、定期的な個人面談等をとおして積極的な支援を行い、希望進路とのミスマッチを防ぐ。	進路実現100％	B	B				
		進路実現に向けて、計画的に総合的な探究の時間を展開するとともに、面接練習の記録簿を作成・活用することで、継続的・段階的な指導を行う。	通年	A					
	保護者やSC、SSW等との連携	日頃の電話連絡や面談などをとおして保護者との連携を図る。またSC、SSW等と生徒情報を共有し、中途退学防止並びに生徒の個性や特性に適した指導に努める。	通年	B	B				

食農科学科	進路実現を見据えた特色ある学習活動を展開し、勤労意欲の醸成を図るとともに、正しい職業観の育成を図る。	食農科の教育内容の改善・充実を図るとともに、プロジェクト学習やICTを活用した魅力ある農業教育の充実と安全教育に努める。また、キャリア教育の充実を推進し、各種資格取得率をあげる。	８割	B	B	B	・ICTを活用し「農業と環境」「総合実習」「課題研究」等の授業において、データの集積と情報の共有を図りプロジェクト学習などの体験学習をとおして、農業教育の充実に努め、生徒の学習意欲の醸成と向上を深めることができた。今後はGAP教育やスマート農業につなげ、効率的農場運用の一助につなげたい。 ・各種資格取得について、７割以上の生徒が準二級等の資格取得することができた。今後もキャリア教育の充実に努めていきたい。 ・農業クラブの活動について、全国大会や九州大会に出場し、農業技術検定（食品部門）おいて、優秀賞を受賞することができた。県の代表として参加することで生徒の学びや学習の励みとなった。 ・社会人招聘事業を活用し、あさくら観光協会や朝倉市森林組合の方から、町おこしの現状や森林資源の現状と活用の方法について講義を受けることができた。今後も引き続き関係機関及び産業と連携を図り、地域資源の活用方法を学ばせる。 ・「つるフェス」「あさくら祭り」「SKB」「県庁ロビー販売」「農業・水産マルシェ」などイベントに参加し学校PRと地域貢献することができた。この体験をとおして、自己肯定感や社会人としての資質向上と職業観の醸成につながった。	B	食農科学科の定員割れの解消に向けて、食農科学科の特色を生かした人材育成を模索する必要があるのではないか。 食農科学科の生徒に対する進路指導については、食品や農業の進路を選択しなければならないと考えている中学生がいるため、食品・農業以外の進路があることをＰＲしてもらいたい。 販売会については、県庁などの地域外ではなく、保護者向けや市役所などの地域で販売会を設定できれば学校のＰＲになる。また、生徒が商品の原価などを計算することで経営力を身につけられる。
		農業クラブの活動をとおして、生徒の自主性・主体性を育み農業に対する興味・関心を高めるとともに、農業の面白さ楽しさを理解させ、自己肯定感の醸成を図り、勤労観や働く意欲を養い正しい職業観とマナーを身につけさせる。	随時	A					
		地域社会（自治体・地元企業・農業経営者）と連携しながら地域農業及び関連産業に貢献ができるグローカルな視点を持った生徒を育成し進路実現に繋げる。	随時	B					
	地域共創の理念に基づき、学習成果を活かしながら、地域から愛され、信頼される人材の育成と魅力ある農場づくりに努める。	「未来を切り拓く人材育成事業」等の事業を活用し、外部講師を招き専門教育の質の向上や地域に本学科の情報発信する取り組みを行うとともに、募集定員割れを防ぐ広報活動にも力を入れる。	随時	A	B				
		地元農産物を使った商品開発に取り組み、地域に愛されるとともに、地域に活力を与える人材を育成し魅力ある農場経営を実践し、学校のPRを推進する。	随時	B					
		農場や地域の資源を活用しながら地域農業を活性化させ、気象等のデータを活用しながら経営コスト削減や労働環境の見直しを図ることができる経営力を身につけた人材を育成する。	通年	B					
特別支援教育	支援が必要な生徒に対して適切な対応を検討し、支援を行う。	対象生徒の個別の教育支援計画及び指導計画を作成し、校内だけでなく必要に応じて保護者とも共有し活用を図る。	作成率100%	A	A	A	生徒との個人面談や保護者からの教育相談を受けながら、生徒理解を深め、本校の特別支援教育の実態と課題を把握することができた。また、SC・SSWからの助言を基に、担任・保護者・医療機関や関係事業所との面談やケース会議を開き、今後の支援と指導につなげることができた。今後は、県からの情報や他校の取組を積極的に学び、特に、通級指導の内容なども参考にしながら、本校の実態にあった特別支援教育の充実を図りたい。	A	
		定期的に特別支援教育委員会を開催し、対象生徒の状況や支援内容等について確認や検討、修正を行う。	年４回	A					
		養護教諭・修学支援担当者・SC・SSWとのケース会議を行い、より具体的な指導につなげる。	月１回	B					
人権教育	人権・同和教育推進体制を確立し、生徒の人権意識の高揚を図る。	学年単位、クラス単位で人権・同和特設授業を行うことにより生徒の人権意識の高揚を図り、生徒が安心して学校生活を送れる環境作りに努める。	年３回以上	B	B	B	・特設授業等、年度当初に計画したものは予定通り実施できているが、日常の学校生活での言語環境や合理的配慮など、生徒・職員の人権感覚を向上させる具体的方策に更なる改善が必要である。 ・生徒情報の収集や共有について努めたが、一部の関係者のみの情報となり、特にクラス担任への負担が大きかったケースがあった。随時機動的な支援体制が作れるような仕組みを保健環境部やコーディネーター等とともに検討していきたい。 ・就職進学試験での不適正選考報告は無かったが、近年、見学会や体験会、各種行事等で不必要な生徒情報を求めるケースが増加している。個人情報が「何のために必要」なのかを、常に問いただす感覚の育成に努めたい。	B	
		学年や分掌と連携し、人権関係の各種研修会、学習会に積極的に参加することによって人権感覚を磨き、教育活動の充実を図る。	随時	B					
	生徒の実態を把握し、修学支援、進路保障の取り組みを進める。	中学校、関係諸機関、ＳＳＷ、ＳＣ、訪問相談員と連携を図り、課題を有する生徒の情報収集と支援を進める。	随時	B	B				
		いじめ対策教育相談委員会や生徒情報交換会をとおして、全職員での生徒情報の共有化を図り、迅速な対応に努める。	随時	A					
		不適正選考を排し、「申合せ」違反等については、担任や進路指導部、ハローワークとの連携を図り、進路保障の取り組みを進める。	随時	A					

自己評価及び学校運営協議会評価を踏まえた今後の改善策

・遅刻者指導に対応の在り方と目標設定については、次年度に向けて再検討を行う。
・挨拶運動をはじめとする地域連携活動については、計画的に実施ていく
・進路指導における成果の活用と学科の特色を生かしたキャリア教育の充実を図っていく。
・新型コロナウイルスで様々な活動制限を受けた中学生がこれからも入学してくるため、体験的な活動を取り入れながらコミュニケーション能力を培い、自己肯定感を高める活動を行っていく。
・

評価項目以外のものに関する意見